

## 院内院外研修

日時	名称
1月13日	医療スタッフのための糖尿病基礎講座9・10
1月30日	第2回研修会 看護の質の改善を目指して
2月4日	県内の予防接種過誤発生状況について
2月15日	在宅緩和ケアが実現した取り組みを共有しよう
2月17日	看護職・介護職が行うエンゼルケア
2月20日	診療報酬改定に伴う管理栄養士業務の在り方
2月20日	今を生きるあなたへ「人生の最終段階」に受ける医療とは
2月25日	「医療安全管理対策」「院内感染対策」
2月29日	糖尿病診療の最前線
3月5日	訪問看護について～在宅で安心して過ごすために～
3月18日	接遇研修
3月26日	診療報酬改定対応伝達講習会「摂食嚥下の栄養指導 How to 講座」
4月9日	医療改正勉強会
4月9日	高齢者の摂食嚥下障害と低栄養
5月30日	患者の好感と信頼を得るために
6月15日	移動動作の介助方法についての考え方
6月24日	宇城地域事業部研修会「循環器疾患の概要～心不全を中心に～」
6月26日	[健康日本21]を中心とする国の施策の現況及び健康運動指導士の役割
7月23日	医療安全のために～栄養管理におけるリスクマネジメント
7月26・28日	在宅医療・介護連携にかかるネットワークの実証に関する説明会
8月24日	第3回北部糖尿病スキルアップセミナー
11月3日	糖尿病専門医が見た原発事故、東日本大震災を経験して
11月4日 12月12日	認知症疾患医療センター事例検討会
11月5日	生涯教育研修会「給食経営管理と臨床栄養管理の連携について」
11月19日	「代謝疾患領域トピックス」「脂質異常症～その病理と管理～」

## 防犯カメラ作動中

当院では「警備会社」と24時間提携し、全館に防犯カメラシステムを導入しています。



## 年末年始のお知らせ

12月29日(木) 年末当番医 (窓口受付は午後6時まで)  
 30日(金) // (窓口受付は午後4時まで)  
 31日(土) 休診  
 1月1日(日) 休診  
 2日(月) 休診  
 3日(火) 休診  
 4日(水) 平常通り (窓口受付は午後6時まで)

### お正月料理の一品

#### かわりごまめ (豊作を祈願して)



いりこ……………小150g  
 むきピーナツ……………100g  
 カシュナツツ……………50g  
 松の実……………20g  
 A { 砂糖……………80～100g  
   水……………大さじ2  
 B { 濃口醤油……………50cc  
   酢……………小さじ1

- ① いりこはフライパンで良く乾煎りする。ざるに取っておく(またはレンジで少しづつ炒る)。
- ② ピーナツ、カシュナツツは2～3ヶに切っておく。
- ③ 厚手鍋にAを入れ、きつね色に焦がし、カラメルを作る。火を止め、Bを加え溶かす。  
①②と松の実を加えからめる。

## 院内散歩

### 第67回健康教室 10月29日(土)～落語会～

落語家の桂 <sup>かつら</sup> 塩鯛 <sup>しおだい</sup> さんを大阪からお招きしました。



昭和52年に桂ざこばに入門され、桂ざこばの筆頭弟子として活躍中、芸歴37年。

初めての試みとして落語を聞いていただきました。ここで一席といたくなるような高座が調理台の上に出上がりました。落語には落ちがつきものです、想像もつかない落ちに涙が出るほど笑いました。大変だった一年を笑いで吹き飛ばして頂けたでしょうか。

### 編集後記

まだまだ震災の傷跡がたくさん残っています。当医院が皆様の居心地の良い場所となるような環境作りや、医療の質の向上の為、職員一同頑張っていきます。  
 来年もよろしくお願ひ致します。 広報員一同

# さわやが 通信

第64号

平成28年12月21日

発行

## 協会けんぽの健診実施指定機関



内科・循環器内科・麻酔科・呼吸器内科・消化器内科

医療法人社団 **尾崎医院**

宇土市本町1-8 TEL0964-22-0241

ホームページ

当日順番受付専用

フリーダイヤル **0120-0964-22**

受付時間 8:00～17:30 (月～金)

8:00～16:00 (土)

窓口受付時間 8:00～18:00 (月～金)

8:00～16:30 (土)

# 職人の技と想い



院長 尾崎 建



昭和の薬師寺金堂の建立に係わった西岡常一棟梁の生きし日のドキュメンタリー映画を観た。妥協を許さない仕事ぶりから、東大寺の鬼と呼ばれ、弟子を採らず、その生活は決して豊かではなく、2人の息子さんは後を継がなかった。全国から集まった腕に自信のある職人達の選考の際、工具箱とその道具の一つ一つをじっくりと見て決定していた。宮大工にとって、日常の道具の管理は、その人の技量を表す、命ともいべきものであろう。現代建築では、耐震法、免震法はコンピューターを用いた極めて複雑な建築力学の中で、その支えの強度、柔軟性を計算し施工されているが、奈良や京都に残る1000年以上も昔の木造建築をした棟梁達は、どのような計算をしたのだろうか。西岡棟梁は、使う材木は、その育っている現場へ赴き、風当り、日の照り具合、斜面の程度を調べ、何の木を何処へ、どの大きさに切り、組み合わせるのかを決めていた。5つ玉のソロバンを用いて、頭に手拭いを巻いて図面を引く。その格好良さは何ともいえなかった。

小川三夫氏：決して弟子を採らなかった西岡棟梁の最後の弟子とされる。高校時代の修学旅行で訪れた東大寺。1300年も前に建立された五重の塔を手で触れ、感動。宮大工への熱い情熱を持ち、何度も弟子入りを申し込むが、そのつど丁寧な手紙で断られる。「一見つまらない仕事の積み重ねの後にこそ、自分自身の心の通う作が生まれます。形だけにとらわれた作品は本当のものではありません。」しかしその熱心さから21歳で弟子入りを許される。8年間、棟梁の家で暮らし、現場で一緒に仕事を。徒弟制度の中から、道具の使い方、仕事の勘、棟梁の立ち振る舞い全てを体に憶えていった。

「大工の仕事というのは、言葉で教える事は出来ないんだよ。体の記憶だから。」棟梁からは何も教えてもらえなかった。一度だけ、一枚の向こうが透けて見える様なカンナくずを渡された。それを壁に貼り、同じ様なカンナくずが出来るようになるまで、刃を研ぎ、削り続けたそうである。

宮大工の技が次世代へ引き継がれていく為には、飯の食える職でなければならないと考え、栃木の山間部にいかるが 鶴工房を開設、多くの宮大工を育てている。現在30人が働いており、そこには学歴はない。大学卒もいれば中卒もいる。一度社会へ出た後に宮大工の道を目指すものもいる。住み込みの弟子が暮らすのは、大部屋をベニア板で仕切ったプレハブ宿舎。日常生活に必要な最小限の身の廻りのものだけしか置けない。5:00起床。新入りの見習いが作った朝食を食べ、夕方まで仕事を。夕食後は自由だが、近所には遊びに行く場所も酒を飲む場所もない。皆が砥石に向かい刃物を研ぐ。

小川氏は語っていた。「一人前になるまで10年が目安。最初に“日本の建築は自分が背負っていきたい。”等と熱く語るやつ程、すぐ辞める。毎日、木に触り、刃を研ぐのが楽しい。その様な若者がいいんだよ。いい子ばかり

じゃいかんのよ。そうでない子も両方必要なんだ。似た様な人間ばかりの集団は、あと一歩という時、誰も足を踏み出そうとしないんだよ。」過去のノーベル賞受賞者をもみても、この事がうなずける。豊かなエリート集団ばかりの研究室からは、あっと驚く発想は出にくい。既成事実には捕われない、一般常識からかけ離れた自由奔放な発想の出来る若い研究者の中から、後に受賞に価する偉業たくみが生まれているのは事実。300年後の工が解体修理した時に、平成の工の技術たくみや想いを読み取れる様な仕事を残すこと。これこそが西岡棟梁から受け継いだ工の心であり、心を打たれる言葉である。

私が医師としての道を歩き出した45年前、医療の世界もある意味では徒弟制度に近かった。当時、他の世界もそうであったように、上司より先に出勤し、上司が帰るまでは病棟や医局に居残り、その技術、考え方の多くを盗む事を心がけた。教科書的な典型的病態を呈す症例はむしろ極めてまれであり、患者さんの許へ何度も足を運び接していく事の中から自分なりの診断学、治療学を身に付けていく。もちろん現在の様に進歩開発された診断装置(エコー、CT、MRI、内視鏡)や生化学検査も不十分な中であっては患者さんの病態そのものを熱心に観察していくことこそが教科書であったように思われる。

輪島塗りの様な高級なものではないが、日頃10年以上毎日使用していた漆塗りの椀が欠けてしまった。「貴方、もう十分過ぎる程使わせてもらったから、捨てようかしら。」家内が私に言った。その欠けた椀をみて驚いた。幾重にも重ねて塗られていた。職人は何度も何度も塗っては乾かし、長い日数を経て作成されたものであろう事が見える。「ちょっと待て、直せるかもしれないから、今度、名工展が熊本で開かれる時に持って行って相談してみよう。」その椀は毎年1回鶴屋で開かれる、日本の名工展で10年以上前に購入したものであった。2年前、寡黙な御主人の許へ持っていった。「直せるでしょうか。」「こんなに長い間使って戴き、いい色になっています。大切に使って戴いて有難うございます。きちんと修復してさしあげます。1年後に熊本に来ますので、その時まで預らせて下さい。」1年後、娘さんから1枚のハガキが来た。岩手だより『まだ岩手は寒い真冬の季節でございます。私は生まれてはじめてインフルエンザに罹り、1週間程寝込んでしまいましたが、皆様お変わりありませんでしょうか。昨年お預かりした椀が出来上っています。父が2月に熊本へまいります。その時お持ちしますので、足を御運び下さい。』



浄法寺塗

1年ぶりの椀をみて、再び驚いた。どこが欠けていたのか全く解らない。修復は、その欠けていた場所だけではなく、全体を輪状に削り取り、新しい品物を造り出すのと同じ行程でなされたようであった。感謝の気持ちを述べた時の御主人の表情が、何ともいえない職人の笑顔であった。日本古来の、物を大切に使う文化、造った職人の想いが、高度成長を遂げた現在、棄てる文化に変わってしまったのではなからうか。ちなみに、私は修復された椀で毎日食事している。どんなに熱い物を注いでも、私の手には熱さを感じさせない。長い間培われたプロの職人の想いと技であろう。大切に使っていこう。

# 熊本地震

4月14・16日

昨日の事のように思い出されます。夜間の出来ごとで、入院患者様への被害を心配しましたが何事もなくホッとしました。

当医院では高架タンクの破損、エキスパンション・ジョイントの落下、外壁の一部落下、床タイル、クロスクロスの破損等の被害がありましたが、平常通り診療を行うことができました。修復も順調に進んでおり、今年中には終わる予定です。

震災後すぐ防災委員会を立ち上げました。当院は5年前耐震チェックを終えています。防災マニュアルの見直し、防災用品の再確認など、従来の防火訓練はもとより患者様をいち早く安全な場所へ誘導することを第一に考え、職員一体となりシュミレーションを重ねています。

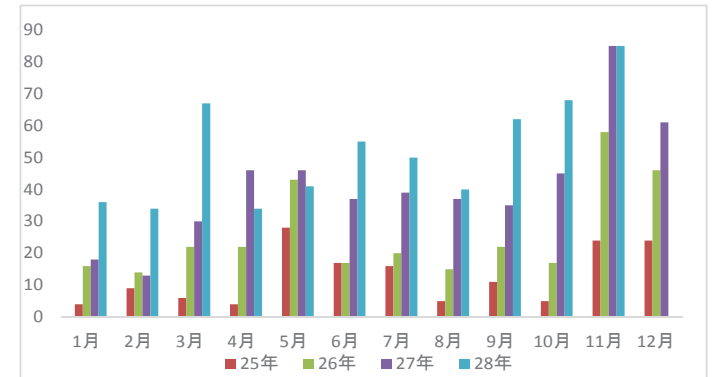


7月16日に菊陽町にある菊陽台病院の田中あづさ先生をおまねきして、地震の影響による医療体制の確保について講義を受けました。

(防災委員より)

# 健保協会健診

健保協会の健診協力医療機関になり5年目になります。健診企業の件数も増えています。各企業の健診に対する意識が高くなっているようです。



健診状況

今年は震災で4月、5月の健診は中止し、様子を見て再開しました。土曜日にも健診を実施しておりますが、予約が多くてお受けできない場合があります。

1月、2月、8月が少ないようですのでご利用ください。

健康で元気に過ごす為に健診を受けましょう。

(健診担当より)